

第三者評価委員 各位

2024年2月27日

当日要項

学校法人茂来学園大日向小・中学校

校長 久保 礼子

校長 長 沼 豊

2023年度 第三者評価委員会の実施について（お知らせ）

浅春の候、皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

本年度の第三者評価委員会を以下の通り開催いたします。皆様におかれましてはご多忙の中とは思いますが、今年度の学校評価をもとに教育活動改善のため、お話しいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

記

1 開催日時 2024年3月6日（水） 16:30～17:30

2 開催方法 オンラインにて開催いたします。

3 式次第
1) 開会のあいさつ（長沼）
2) 評価結果の概要説明（秋山・関）
3) 評価委員のみなさまから
4) 閉会のあいさつ（久保）

4 その他

- 事前に評価結果をメールにて送らせていただきます。
- 不明な点などありましたら、遠慮なくお知らせください。

担当) 小学校教務主任 秋山真一郎

開会の言葉 中学校 長沼校長

本日は委員の先生方、お忙しい中ありがとうございます。雪が降っているところですが、今年度終わるところですが、小学校は5年目、中学校は2年目とやってきたなかでの教育活動について、アンケートもとりましたが、報告させていただきます。来年度以降の教育活動に活かしていきたい。

○中学校

<評価結果の概要説明>

- 小学校と中学校で、質問項目が違う。中学校は昨年度と同じ項目で調査を行った。
- 7月に、生徒の主体的に出来るまなびができるよう、ワールドオリエンテーションを実施した。→それまでクローズだったこともあり、オープンにしたいと思って実施した。
 - →フレキシブルに生徒の姿を見ながら変えていけるスタッフの素晴らしさを感じた。
- 6月にイエナプランスクールの認定を受けた。その基盤を高めていく時期と捉え実践を行ってきた。
- 教職員の結果についてはやや下降したものの、全体はやや上昇した。
- まなびの質保証について、今後考えていきたい。また、地域との連携について考えていきたい。
- 保護者への調査について、(数値が)大きく上昇した項目も多く見られた。
- 生徒指導にかかる事案への対応で配慮が必要な場面があった。→対応方法について整備していく必要がある。
- イエナプランの中学校としてカリキュラム、生徒の成長発達を促すようにしていきたい。
- クラスの名前も、それぞれが思いをこめてつくってくれた。基礎固めの2年間だったと思う。

<評価委員の先生方から>

<荒井委員>

- ・ 生徒指導関連の事案があったということで、ノウハウがあまりない中での対応は、スタッフの皆様にとってとても不安だったのではないかとということが予想されるため、その思いがアンケートの結果として現れたのではないか。
- ・ 危機管理マニュアルや対応フローなどが未整備の可能性があるので、次年度以降、体制構築に向けた整備を進めていく必要があると思われる。
- ・ 今後中等教育学校の動きを想定した場合、保護者・地域との連携と関わって、情報発信のあり方についても、どのようなツールを使って、どのような頻度で、発信していくことができるか、保護者・地域の方の安心感につながる取り組みを進めてほしい。

<奥村委員>

- ・ 立場の違い（保護者・子ども・スタッフ）の結果が比較しやすい結果報告だった。学校評価では、立場による意見の共通性や相違性を見ることは重要である。
- ・ 評価項目「授業を通して必要なスキル知識をみにつけることができている」について、スタッフと、子どもたち・保護者の評価結果にギャップが見られた
 - →先生方は「もっとやれる」と厳しく評価しがちな傾向がある。引き続き取り組んでいただくとともに、できている部分をみていくことも必要であると思われる。
- ・ 中学校訪問時、小学校を経て中学生になった際にしっとり学んでいる子どもたちの姿が印象的であった。
- ・ 中学校におけるイェナプランらしさとは何かを考えさせられた。小学校との共通性が高い印象であり、それは良い側面でもあるだろう。一方で、中等教育ならではのイェナプランとして、中学校らしさをどのように考えていけば良いだろうかと考えさせられた。私自身も今後研究を進めていきたいと考える。

<土岐委員>

- ・ 中学生は進路のことが大きい。進路について、普段自分は塾をやっている感じるのは、偏差値でランクづける価値観が少子化の中でも強まっている気がする、ということ。私の地域の公立の子が苦しい思いをしているのを日々見ています。なので大日向中についても卒業生の進路についてとても関心がある。どういう道を歩むかという時に、個人個人が自分に合った、行きたい学校を選択できる、ということはもちろん、その先の進路として地域で個人事業を始めるというような「いい高校、いい大学、いい就職先」という以外の選択肢も、進路指導の中で子どもたちに知ってもらえるといい。
- ・ そういう地域に目を向けた価値観も持っていければこれから数年経って、地域の中に、大日向中学校出身の子が溶け込んでいくと思う。そして学校への理解が地域の方により広がっていくと思う。少しずつ地域に根づいていく、知ってもらえるようなアプローチができるようになっていくということも期待している。
- ・ 生徒さんからの意見。しっかりしている。こういうのを読んで、スタッフさんはどう感じるようになるんだろうか？ドキッとすればいいけどもヒントが多い。

○小学校

<評価結果の概要説明>

- 今年度から3学年から2学年になった。どう反映されるかな？と思って見てきた。
- 今までが、1-3、4-6のくくりなので、全体の数字を比較することは難しいと思った。自分・他者・世界というように見たら傾向が見えたように思う。
 - 自分自身との関係 4.16 4.15 3.78（下学年・中学年・上学年の順）
 - 他者との関係…4.43 3.91 3.74
 - 世界との関係…3.94 3.51 3.40
- 下学年は30人から20人にクラスの人数を変更して進めた。1人で20人を見て、3

クラスを見て回るスタッフが1人という状況で学びを進めてきた。

- スタッフのふりかえりのなかで、他者・自分たちとの関係がうまくやっているのは、2学年だから？20人なのか？ということ、どちらも考えられる。
- 中学年は、他者との関係についてが少し落ちてきているというのが、発達段階・成長段階にもあるのかな？と思った。
- 3学年のグループから2学年にした理由の一つに、「おとなのゆとりのため」ということがあった。ぎゅうぎゅうの関係性の中で、日々の中でじっくり取り組めなかったことがある。そこをいったんリセットしたいということで今回、このような対応を取った。
 - そのことが、子どもたちが特に下学年でいうと、「大事にされている」、「聞いてもらえている」というところに現れている、ファミリーグループの子どもたち同士の関係性が高まっているように思う。あまり、大人のベクトルが太くなるのは、本来うちの学校が目指している自立協働とはちがってくるから、慎重に考えていきたい。
- 学びの時間で集中できている。
- 職員の平均…低いところからかなり上向いた。

<評価委員の先生方から>

<土岐委員>

- 昨日ちょうど学びの様子を見学した。中学年の劇を見せていただいた。その印象がとてもよかった。緊張しながらも一生懸命やっていて、劇というものの教育効果の高さをあらためて感じました。
- 劇を見に来る子もいる一方、教室に残って、自分たちのことをやっているという子もいて、それがよかったと思う。オランダで見た子どもたちの姿とリンクした。
- そこにある空気感が、教室と、劇をしている体育館で分離しているわけではなく、自分はこれがしたいというのが受け止められる空気感があった。個人主義だけど、バラバラではなくその土台には共同体感覚があるという雰囲気。今回、それが見られてよかった。
- 廊下が雑然としているところがあって、そこが整理整頓できるようになったらいいなと思った。

<奥村委員>

- 今年度は2つの年齢からなる子どもたちでグループが編成されたというお話だったが、どの学年でも「異年齢の良さ」に関する評価項目の結果が高かったのが印象的であった。
- 「自分（8）自分は大切な存在だと思う」「他者（3）私は仲間大切にされているし、仲間のことを大切にしている」といった評価項目が全体的に高い結果であった。学校訪問時、子どもたちがありのままに過ごしている様子が印象的であった。それが評価結果にあらわれているのではないかと感じられた。
- 計画を立てることに関する評価結果が昨年より下がっており課題であるとの報告であ

ったが、それでも評価項目「自分（7）毎日の計画を、自分でたてている」はどの学年でも3.9（5点満点）以上あり、それほど低い結果であるとは感じられなかった。

- ・ 「世界（7）学びのために校外に出かけたり、ゲストをよんだりなどのイベントを、こどもたちで計画している」の評価結果は低めであるが、常にゲストを子どもが呼べば良いわけではないと思われる。
 - ワールドオリエンテーションで学習を進める中で子どもたちから「この人に来てもらいたい」ということが出てきた場合などは良いだろうが、この人に出会ってほしい、こういうことを学んでほしいというグループリーダーの思いもあるだろう。
- ・ 学校評価の評価項目がこれで良いのかを定期的に見直し、議論する機会があっても良いと思われる。
- ・ 中学校にも共通する点であるが、学校評価の結果を平均で出している。平均で出すとわかりやすい側面もあるが、平均すると見えないものもある。評価結果が平均で見るととても高い項目でも、一部に低くつけている子どもたちがいるという状況がもしあった場合には、学校で共有してフォローするという形で活用してほしい。

<荒井委員>

- ・ 全般的に、平均値の点が高い点は評価すべきではある。他方で、次のような点に関しては改めて立ち止まって考えるべきではないか。
- ・ 子どものアンケート結果で、「毎日の計画を自分で立てる」点について際立つ結果が出ているが、下学年がこの項目について自信を持って回答することはそもそも難しい可能性がある。
- ・ 緻密な分析を行う必要があるが、0.3ポイント以上の変化項目についてはスタッフ同士でも情報共有しておく必要がある。
- ・ 中学年のアンケート結果の中の「自己肯定感」に関する項目について、年齢や学年が上がれば上がるほど、自己肯定感は下がるという傾向が国内外の調査結果でも指摘されているが、他者との関係性に関する項目について、昨年度と比較して低下している点は学校としても留意しておく必要がある。
- ・ 保護者からの評価の傾向をより深く理解するためには、保護者に対しても「学年別」で分けて傾向を把握することも一案である。
- ・ 教職員のアンケート結果に関して、先日学校訪問をさせていただいた際も感じた点であるが、とてもいい雰囲気先生方も手応えを感じ始めているのではないかと感じた。リフレクションの項目が高いようだが、今後は、リフレクションの「質」にまでアプローチをしてみてもどうか。
- ・ 片付け問題に関して、相対的に低い点に関して、自己調整学習と同じように、そもそも整理整頓をすることはどういうことであり、どのような意味があるのか、きちんとコンセプトや本質から考えてみる機会を作ってみるのも一案である。
- ・ 今後、中等教育学校の動きを踏まえた場合、より一層、小学校と中学校のスタッフ同士の交流を進めていく必要があると思う。

閉会の言葉 小学校 久保校長

今日はありがとうございました。いろいろ本音を出したが、やらなくちゃと思いつつもできていない、でもそうだなというところがたくさんある。こどもにとってもリフレクションは大事だが、学校にとっても大事。これからもがんばりたいと思う。年に一度ではなくご意見頂けるとよいと感じた。